

米寿のお祝い 村から記念品を贈呈



「敬老の日」を間近に控えた9月4日、平田大六村長と佐藤忠良副村長が今年米寿を迎えられた皆さんを訪問し、村長直筆の祝状と名前入りの絵皿を贈呈しました。

この日お祝いを受けた、小島昭治さん、ミヨさん（下関）は、結婚63年を迎えた仲良し夫婦です。ミヨさんは、朝5時に起きてガーデニング。心をこめて花を育てることで、心を潤します。畑で野菜作りや山菜採りも大好きで、これからの時期はキノコ採りが楽しみとのこと。昭治さんは、若い頃から趣味にしていた絵に没頭中。村内外の景色やイベントを絵に書き留めています。小島さんは、「食べ物に気を

つけて、それぞれが趣味や生きがいを持って過ごしていることが長生きで仲良しの秘訣。2人でお祝いをいただきうれしいです。本当にありがとうございました」と感謝の言葉を述べました。

今年の米寿該当者は、昭和4年4月1日から昭和5年3月31日生まれの人54人です。

台風もなんの！熱気にあふれ

下関大祭



台風が心配された9月16日と17日の2日間、勇壮な大輪やお神輿、華やかな山車がまち中を練り歩く伝統の下関大祭が行われ、下関集落が熱気に包まれました。

大祭では、色鮮やかなオレンジの法被を着た青年団が見守る中、小学生が山車を引き、「はやし手」や「太鼓たたき」「踊り手」が祭りを盛り上げると沿道に集まった人たちからは大きな拍手が送られました。

17日の本祭では、渡邊邸でも稚児舞が披露され、小学生5年生の女の子が可憐な舞をみせました。

小学5年生の松田剛さん（下関）は、「2日間、みんなで山車を引いて楽しかった。祭の雰囲気が大好きです」と話していました。

小学生スプリンター 全国大会で自己記録更新！



8月19日、日産スタジアム（横浜市）で開催された全国小学生陸上競技交流大会（種目：100m走）に出場した渡邊椿樹さん（関川小学校6年・下関）が、平田大六村長を表敬訪問、大会結果を報告しました。

全国大会では、予選で12秒72を記録。決勝進出も十分に狙える記録に、新潟県チームの監督から「新潟県で決勝に進出した選手はいない。第1号になるぞ」と声をかけられ、気合が入ったという準決勝。他選手のフライングがあり、スタートが慎重になってしまったという記録は、12秒86。予選2組の6位で残念ながら決勝進出はなりませんでした。

椿樹さんは、「全国で戦えたことは、良い経験になった。まだ、これからある大会で記録を出せるように頑張りたい。桐生選手を目指して中学でも陸上を続けたい」と話してくれました。

元気いっぱいハツラツプレー！ 高齢者体育レクリエーション大会



敬老の日を間近に控えた9月7日、今年で43回目を迎えた高齢者体育レクリエーション大会が村民会館アリーナを会場に行われました。主催は村と関川地区老人クラブ協議会で、当日は村内13の老人クラブから、約250人が参加しました。

大会は、全6種目を競う各クラブ対抗戦。選手の白熱したプレーに拍手や歓声が沸き上がりました。

「缶立て簡単だて」に参加した高橋省子さん（大石）は「みんなが積んだ缶が倒れないかとヒヤヒヤした。体を動かしていい刺激になりました」と笑顔で話してくれました。

《大会結果》

- 第1位 下川口やまゆりの会
- 第2位 湯沢友愛会
- 第3位 高田親和会

駅で心の癒しを発見 季節の花で利用者をお出迎え

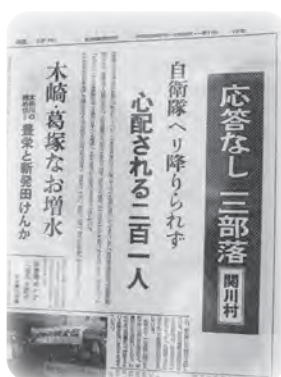
越後下関駅のきっぷ売り場でコスモスの花が利用者を迎えてくれるのをご存知でしょうか。その花は、実は原材料が小麦のパン粘土で作られたパンフラワーと呼ばれる造花なのです。伊東ヤイ子さん（下関）が10年以上前から飾ってくれています。

夏はヒマワリ、9月に入りコスモスと季節の花を作って飾ってくれます。電車をよく利用する伊東さんが、自分の好きなパンフラワーを駅に飾りたいという思いから始めました。粘土に油絵具で色を付けることから、1つの作品を作りあげるのに相当時間がかかりますが、電車で出かけた米沢への旅などを思い浮かべながら、月に1回程度で新しい作品を作りあげます。

下関駅員の平井一也さん（大島）は、「越後下関駅に癒やしの空間を作ってもらいありがたい。米坂線もよく利用してくれて、花と笑顔で元気をもらっている」と話してくれました。



▶当時の新聞記事が展示



50年前に発生した羽越水害の経験を今後の防災に活かすため、8月26日、村上市のふれあい市民センターを会場に、「羽越水害50年記念シンポジウム」が開催されました。荒川流域の市町村と国、県などで行く実行委員会（会長・平田大六村長）が主催し、約800人が参加しました。講演には、気象予報士の天達武史さんを講師に迎え、「特別警報と気象災害への備え」と題して講演。天気予報は刻一刻と変わるので、最新の情報を確認することが大切と話されました。

パネルディスカッションでは、パネリストの平田大六村長が羽越水害当時に消防団員として活動した当時の状況を報告、日頃から自然に触れることが防災につながると呼びかけました。シンポジウムの最後には、関川小学校の6年生が、未来を担う世代の宣言として、水害について勉強してきたことを発表し、防災への誓いを述べました。



羽越水害の経験に学ぶ ～羽越水害50年記念シンポジウム～